

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

体験を共有する工夫／横浜市美しが丘保育園

子どもたちの体験をどのように誰と共有していますか？
事例の園では、「発見・不思議から始まった子どもたちの体験」を子どもと保育者と保護者と共有するために、工夫のひとつとして、絵本（子どもたちのつづやきや保育者の思いなどのエピソード）を作成しました。

また、話し合いの視点を明確にもって保育の振り返りを行うことで子どもたちの体験を共有しています。これらの工夫は、「科学する心」を育むことに繋がります。

※イラスト画像は保育者作成の絵本より抜粋



○ 「ピーマンが 赤くなってる」／3・4・5歳児

✦ 初収穫

5月中旬3歳児が、オクラ、アサガオ、フウセンカズラの種と一緒にピーマンの苗を植えた。そして、6月上旬に、初めての収穫をした。

調理さんをお願いして、お昼のメニューの野菜炒めの中に入れてもらい、食べた。「おいしい！」「にがい！」感想は様々。

この日をきっかけに、ピーマンが食べられるようになったRちゃん。ピーマンに対する興味・関心も深まり、毎日のようにピーマンの様子を見に行き、担任に報告するようになった。



▲クリックで拡大

✦ 発見

毎日、水やりをし、生長を間近に見たり、感じたりしていたある日のこと、Aちゃんが、「園長先生！ピーマンが 赤くなってるよ！」と、大発見。
そして、保育者（園長）と「なぜ？赤くなったのか」ピーマン討論会（？）が開かれた。

保育者：「ピーマンさん、なんで、赤くなったの？」

Bちゃん：「毒が入っているんだよ」

Cちゃん：「虫が食べちゃったんだよ」

Dちゃん：「お水を飲み過ぎたんだよ」

Eちゃん：「ずっと採らなかったからだよ」

4歳児5歳児も「なぜ赤くなっていたのか？」一緒に考えた

Fちゃん：「もともと赤ピーマンだったんだ」

Gちゃん：「お日さまに当たって良い気持ちになっちゃったんだよ」

Hちゃん：「パプリカ？」「フルーツピーマン？」

Iちゃん：「葉っぱから、栄養をもらったからだよ。」

Jちゃん：「ピーマンはねえ…黄色と赤と緑があるんだよ。」

保育者：「赤くならず、しわしわのおばあさんみたいになってるピーマンがあるねえ…」



▲クリックで拡大

Kちゃん：「…もともとおばさんだったんだよ!」

Lちゃん：「ピーマンが出るか、パプリカが出るか、運なんだ!」

Mちゃん：「太陽が料理したんだよ」

不思議な思いをもちながらも、ピーマンはすすくと大きくなり、数も数えきれないほどに。

この子どもたちのつぶやきや出来事を子どもたちや保護者の方に、わかりやすく伝えたくて、保育者が絵本を作った。

✿ みんなで収穫

7月下旬、赤ピーマンと緑ピーマンの食べ比べも兼ねて、クッキングをすることになる。

3歳児21人全員が収穫できるほどの大収穫!! (全部で26個) 赤いピーマンは2つ。

自分たちで、収穫し、洗い、形を比べたり、匂いを嗅いだり…。

クッキング後もピーマンは、育ち続けた。ピーマンでの経験から、他の野菜の変化にも、すぐ気付く子どもたちだった。

9月上旬には、来年の不思議につながるように、ピーマンの種採りをした。「こんな小さな種が大きくなる不思議…」をみんなで、共有した。



▲クリックで拡大

✿ そして…保育者みんなで視点をもって話し合った

- 子どものつぶやきに気付く大切さを改めて確認しよう。
- 正解を調べて教えることよりも子どもが考える力、思う心を尊重していこう。
- 子どもの気付きに、保育者としてどう寄り添い深めていくことができるかを考えてみよう。
これら3点の視点から、保育の反省、疑問、課題、などがたくさん出され、話し合いを深めることができた。また、保育者同士がたくさん語り合う基盤が大切であることを再確認した。

✿ 取り組みを振り返って

- 都会の中の保育園という環境のもと、毎年、小さな畑とプランターで、栽培から食育につながる活動をしてきた。保育者それぞれが子どもの生活の中で経験させたい願いがあって取り組んできたが、きちんと振り返りをしたり、当園の環境や地域性のもとで長い先まで考えての計画を議論することが不足していた。今回、ひとつの小さなつぶやきから始まった、子どもたちに見えているもの、感じていることなどを、保育者同士で共有することができた。子どもの感じる力、思いを広げて一生懸命考えようとする力、そして大人では思い付かない、かわいらしく豊かな発想に改めて気付かされた。
- 子どもの小さな発見から、保育者も知りたい思いが強くなった。専門的に調べることにより、保育者自身、知識を得ただけでなく進化の不思議を感じることもできた。
- 今回の取り組みを振り返って、子どもからの発信を受け身で感じるに留まらず、保育者自身も共に探究することが必要なことを感じた。
- 栽培計画について見直し、保育者が子どもの心の育ちを丁寧に確認し合っていくこと。
- 経験がより豊かになるように、子どもの心が動かされるような環境を作っていきたい。
- 子どものつぶやき、気付きをとらえ、「知りたい」「やってみたい」という興味が広がっていくように保育者が常に意見交換し、協力し合っていきたい。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」